

# ——2016 年をどう闘い抜くか——

“安全保障関連法の廃止と立憲主義の回復、そして個人の尊厳を擁護する政治の実現”を目指す市民連合のシンポジウムがありました。

高田健さんは「安倍の暴走は止まっていない『参院選で三分の二をとって憲法を改正する』とまで言っている。野党を共闘させ安倍政治をストップさせよう」と訴えました。各党の国会議員からも挨拶があり、緊急事態条項の持つ憲法破壊・憲法否定性をはっきりとらえ反対していく必要性が提起されました。

基調報告で柄谷さんは『デモ・集会（アセンブリー）』と『選挙』との関係話をしました。「デモは選挙の手段ではない、まして政党に従属することはない」「ルソーも指摘しているように集会の中に一般意思が存在し、議会はデモ・集会を反映する限りで人民主権になる」と民主主義の原点について語りました。まさに国会前で“民主主義って何だ、これだ！”と叫んだデモ・集会の中こそ国民主権が存在するのでしょうか。又、「安倍政権は 9 条があっても戦争できる体制を作ろうとしている」と問題点を指摘しました。



山口二郎さんがコーディネーター、森さん青井さん三浦さん諏訪原さんのパネラーでシンポジウム。山口さんは“憲法違反が当たり前、言語が意味を失う安倍時代”に対して怒らない国民が半分いる」「参院選で自民党が楽勝になったらもう止められなくなってしまうのでは。2016 年は決戦の年」と。

映画監督の森さんは「1995 年サリン事件を起こしたオームの中で起こっていたことが今の社会で起こっている。不安と恐怖から異物の排除と集団化～同調圧力～外に敵を作る。社会全体が、見えない力に自づから忖度してオカシイ・マズイと言えない雰囲気をつくってしまっている」と社会状況の問題点を指摘。

憲法学者の青井さんは「安倍首相は “とりあえず改憲 “などと言って緊急事態条項を持ち出す。しかもその理由が嘘で固められている。その嘘を市民へ明らかにしなければ」と。

政治学の三浦さんは「8～9 月の熱い国会の前、でも 10 月の大学での学生の反応は “知りたくないことは聞きたくない。安全神話を壊さないで” と言った状況。安倍政治の支持率が上がっている、これってなぜ？」と。

シールズの諏訪原さんは「若者の置かれている環境は厳しい。安倍政権は長期ビジョンもなく 3 万円を 1100 万人に配ろうとしたり、憲法違反の安保法制によって国民が命を失ってもどうでもいいといった政治をしている。市民はそれぞれの立場で “私自身はこう思っています” と自分の言葉を発する必要がある」と訴えました。

“こんなイヤな時代を押し戻す” には？の問いに対し、「不安と恐怖の集団化に対決する為には、パリでのテロの様なことが起こっても簡単に集団化しないよう私たちがどのような社会の姿を描き求めるのかを明らかにする必要がある」（諏訪原さん）と私たちの課題が提起されました。

どう民主主義を私たちの手に獲得していくのかが問われています。新しい社会を求める大きなうねり（デモ・集会）を起こしていくことこそ必要だと思われれます。